

徹底しよう! トラクターの安全対策

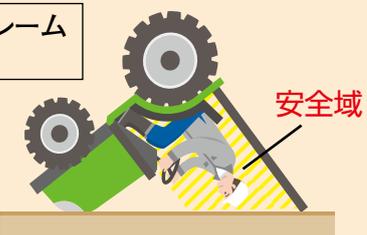
目指せ! 農作業事故ゼロ

春・秋はトラクターを利用する機会が多くなり、農作業事故が発生しやすくなります!
次のポイントを守り、安全・安心な農作業を実践しましょう!

①作業前における機械の点検・整備および周辺環境の確認はしっかり行いましょう!

傾斜地だけでなく、平地でも条件によっては転倒します。
作業前にはほ場内の凹凸や軟弱状態などを確認し、安全な操作をしましょう。

②可倒式安全フレームは運転時には必ず立てて使用しましょう!



安全フレームの効果

安全域

- 転落・転倒時に、安全フレームは「安全域」を確保してくれます。
- 安全域にとどまるためには、シートベルトの着用が必須です。

③シートベルトは必ず締めましょう!

シートベルトを着用することで大幅に死亡事故を減らすことができます。あわせて頭部を守るため、ヘルメットも着用しましょう。

農耕作業用特殊車乗員のシートベルト着用の有無ごとの死傷の状況 (平成23～令和2年)

シートベルト着用時と非着用時で死亡率に約8倍の差があります!	死亡者	重傷者	軽症者	合計
シートベルト着用	7 (2.2%)	46 (14.4%)	265 (83.3%)	318
非着用	311 (18.3%)	437 (25.3%)	973 (56.5%)	1,721
不明	7 (5.7%)	45 (37.1%)	69 (57.0%)	121
合計	325	528	1,307	2,160

(公財)交通事故総合分析センターの集計結果より農林水産省作成

④作業時以外は左右独立ブレーキを連結しましょう!

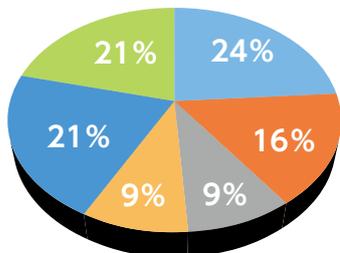
ほ場退出以降も連結せず誤って片ブレーキにすると、急旋回・転落となることがあり危険です。

⑤機械点検・清掃時はエンジンを止めましょう!

エンジンをかけたまま作業部に近づくると作業部に腕や足、衣服が巻き込まれる危険があります。

トラクターによる死亡事故のうち、**転落・転倒による原因が約8割**
また、転落・転倒後に下敷きとなるケースが**約6割**を占めます!

県内の農作業死亡事故形態別発生状況 (平成28～令和7年)



特に注意! 令和7年に発生した農作業死亡事故

夏	秋
スピード・スプレーヤーで農薬散布作業中、エンジンをかけたまま下車し、何らかの拍子に下敷きとなった。	コンバインで誤って傾斜に侵入し転倒、キャビン等の装備がなかったため、体が投げ出され下敷きとなった。

(福島県農業担い手課調べ)

福島県農作業安全運動展開中!

重点推進期間

【春】令和8年3月1日～5月31日 【秋】令和8年9月1日～10月31日

福島県農作業安全運動推進本部

福島県、福島県農業協同組合中央会、福島県農業共済組合、
全国農業協同組合連合会福島県本部、全国共済農業協同組合連合会福島県本部、
福島県農業機械商業協同組合、一般社団法人福島県農業会議、福島県担い手育成総合支援協議会

熱中症対策はあなたの命を守ります!

農作業中の暑さ対策は必ず実行!

県内では毎年5月上旬から熱中症が発生しています。
農業の場合、屋外だけでなくハウス内でも発症する例もあります。
普段から天気予報をチェックし、熱中症対策に取り組みましょう!

◆熱中症について

高温多湿な環境下において、体内の水分および塩分（ナトリウム）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症します。

○熱中症の症状と重症度

立ちくらみ、
大量の発汗、
筋肉痛・筋肉の硬直

頭痛、気分の不快、
吐き気、嘔吐、
倦怠感、虚脱感

高体温、意識障害、
けいれん、手足の
運動障害

小

重症度

大

農作業中の熱中症対策チェック

- 高温時や体調がすぐれないときは作業を避けましょう
- 単独作業は避けましょう
- 1人で作業を行うときは家族や周囲の人に伝えましょう
- 20分おきの休憩とこまめな水分・塩分補給をしましょう
- 暑熱対策グッズ※を活用しましょう ※帽子、ファン付き作業服 など



暑さの感じ方は人によって異なります!
高齢の方は特に注意が必要です!

- 年齢を重ねると暑さや水分不足に対する感覚機能が低下し、暑さに対する身体の調整機能も低下します。
- 自分の体調の変化に気をつけ、暑さの抵抗力に合わせて、予防対策を万全に!

※国の調査(平成26年~令和5年)によると、農作業中の熱中症による死亡者の約9割が70歳以上の高齢者となっています。(農林水産省調べ)



ま ぶ

◆MAFFアプリで熱中症警戒アラートを受け取ろう!

MAFFアプリとは、農業に携わる皆さまに役立つ情報を農林水産省からお届けするスマホ用アプリです。

